

長崎の林業

小曾根星堂書



松ぼっくりでクリスマスツリーの制作（緑の少年団）

1

目次

- 林政だより 長崎県緑の少年団全県交流集会を開催しました！…………… 2～3
- 特集記事 長崎県緑の少年団連盟会長 辻山保美さん…………… 4～5
- 林業普及だより 鹿児島大学 林業技術者養成プログラム…………… 6
- 地方だより 平成30年度第1次補正予算成立…………… 7
- 地方だより・県央 第3回 山の日イベント開催…………… 8
- 林業団体情報 「木育キャラバンin松浦」開催…………… 9
- センターだより 九州森林学会沖縄大会に参加しました
120周年を迎えました！……………10
- 紹介コーナー ペレットショールーム「Wood Work Labo HITOKITO」……………11
- 森林ボランティア技術研修会……………12



2019
No.760

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！



この用紙は、日本の森林を育てるために
間伐材を積極的に使用しています。

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

長崎県緑の少年団全県交流集会を開催しました！



平成30年12月8日(土)～9日(日)に、国立諫早青少年自然の家で、「平成30年度長崎県緑の少年団全県交流集会」(以下「交流集会」という)が開催されました。

今回は、12団、約100人の団員及び指導者が参加し、県内の緑の少年団の日頃の活動状況を発表し、少年団間の相互研鑽及び活性化を図り、団員や指導者の意見交換・交流を目的として、ながさき森林環境税を活用し、開催しています。

活動発表大会



緑の少年団とは、緑を愛し、守り、育てる心を養うことを目的として結成され、県内に24団あり、524人の団員が活発に活動しています。

主な活動として、植栽活動、緑の募金街頭募金、森林整備活動などがあります。

活動発表大会では、これらの活動の他に、各少年団が独自で活動している内容についても発表されました。27年間継続して行っている植樹活動、地域の天然記念物の学習、椿油の搾油体験、松くい虫の駆除など、地域ならではの活動も実施されていました。

各団毎の発表終了後、他少年団からの質疑の時間を設け、他団の活動について、疑問に思ったこと、興味があることを聞くことができ、よい意見交換の機会となりました。「活動の中で一番大変だったことは何ですか。」という質問に対し「全て楽しかったので、大変だったことはありません！」という回答や、発表中「大変だったけど、地域の人に感謝されると嬉しい。また頑張ろうと思う。」など、少年団員の子どもたちは、大変な中でもやりがいや楽しみを見つけ、活動をしていると感じました。



少年団研修

少年団研修は、8日(土)「森林・木材について知ろう・考えよう」、9日(日)「木質材料を使った交流活動」というテーマで開催されました。

8日の研修では、長崎県で制作中の木育ワークブックの一部を使い、植樹から木材になるまでのサイクルや時間、森林整備の大切さを学びました。また、実際に木材に触れ、木材の特徴や性質を学ぶ実験も行いました。木材にシャボン玉の液をつけ、吹いてみると泡が立ち、「木には穴が開いていて、空気を通す」という性質を知ることができました。



9日は、前日の研修で学んだ木材を使い、クリスマスツリーと丸太のコースターを制作しました。制作前には、松ぼっくりの種を使い、植物の繁栄に関するお話も聞くことができました。寒い中、丸太を鋸できるのは大変でしたが、コツを教えてもらいながら、自分だけの作品を作ることができました。

指導者研修

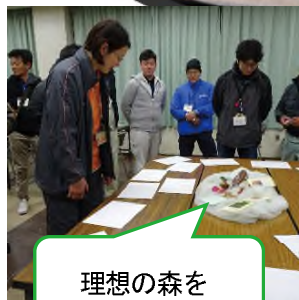
この研修は、指導者のスキルアップを目的とし、少年団活動に活かせるネイチャーゲームを体験しました。まずは、生物に関するゲームで交流をし、夜の森へ出発しました。そこでは、「ゆっくり歩く」や「大地に寝転がり夜空を見上げる」を実践しました。この体



験では、地面の感触を確かめたり、風の音を聴いたり、地面の様子から森の動物を想像することができます。この体験を今後の少年団活動にも活用し、新たな活動メニューの構築に繋がりたいと思います。

最後に

この交流集会や日頃の活動をとおして、木を植え、育て、整備し、使い、再び木を植えるサイクルを学んで来ました。この活動を継続的に行うことで、森林の保全や環境保護に繋がっていくことも改めて知ることができました。



理想の森を描きました。



真冬でも赤い実をつけます。

この経験を今後の少年団活動の参考にし、新しい活動メニューや継続的な活動が多く展開してほしいと思います。また、活動の中で楽しみを見つけ、団員の増員にも繋がっていただくと強く願っています。

(長崎県緑の少年団連盟)

【特集記事】



長崎県緑の少年団連盟
会長 辻山保美さん

長崎県緑の少年団会長の辻山保美さんを紹介합니다。辻山さんは平成30年度から会長を務めており、川内緑の少年団の団長でもあります。

辻山保美さんのプロフィール

辻山さんは、昭和22年生まれの現在71歳です。お仕事はトマトやキュウリ、メロン等を生産する農家です。

緑の少年団について

緑の少年団は、次代を担う子供たちが、緑と親しみ、緑を愛し緑を守り育てる活動を通じて、故郷を愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とした団体です。いわば、ボーイスカウトならぬグリーンスカウトです。

県内各地で24団体が活動しており、団員も約520名に及びます。

川内緑の少年団活動の始まり

川内緑の少年団が結成されたのは、平成2年です。この年に当時の南高来郡国見町

で第41回全国植樹祭が開催され、県内で緑化推進思想が大いに盛り上がった画期的な時期でした。

川内地区は従来から林業振興に対する思い入れが強く、川内生産森林組合は県や町と協力しあって森林づくりに積極的に関わってきました。

そのため、次代を担う子供たちが森林の重要性や林業振興の大切さを理解し、いずれは森林管理の担い手になって欲しいとの願いも組合員の心の中にありました。

平成2年、本県で第41回全国植樹祭が開催されることとなり、この一大イベントを契機として、川内地区でも緑化推進思想の啓蒙を図る具体的な取り組みができなかと生産森林組合の理事会で話題になるようになりました。

理事会で話し合いが進められた結果とし

て、川内緑の少年団と西海緑の少年団が誕生しました。

生産森林組合の地区分区長であった辻山さんは、結成当時の川内緑の少年団の団長さんです。

緑の少年団の再編成

全国植樹祭が終了後、平成19年に西海緑の少年団を取り込む形で川内緑の少年団が再編成されました。平成21年には、第33回全国育樹祭が雲仙市国見町（全国植樹祭の開催地と同じ）で開催されましたので、全国植樹祭と全国育樹祭の二大イベントが緑の少年団活動に大きな影響を与えているようです。

川内緑の少年団の森林体験活動拠点

川内緑の少年団で特筆すべきことは、体験用の森林0.5ha（ヒノキ人工林）を管理していることです。川内生産森林組合が、子供たちの森林体験活動の場として活用してほしいとの配慮から提供しているそうです。そのため、間伐や枝打ちなどの森林整備を実地に体験することができます。

これまで佐世保市祇園緑の少年団や長与北緑の少年団なども体験学習のために受け入れており、他の緑の少年団との交流のきっかけにもなっているのです。



森林体験活動の場（ヒノキ人工林）

緑の少年団団員の適正規模

辻山さんは、少年団団員の適正規模は20名と言われています。その理由をお聞きしたところ、20名を極端に下回ると植樹活動、花苗植栽、緑の募金それに空き缶を利用した獅子除け鳴子づくりなど少年団としての活動が実効を上げることができないからだとの考えです。

その一方で20名を大幅に過ぎてしまうと子供たち一人一人に対する配慮が疎かになるからだとも言われました。

学校との連携

緑の少年団活動を推進していくうえで、西海東小学校の校長先生の理解と協力が大切との考えです。

生徒の数が減少し学校が再編される中であって、20名の人員を確保できるのは、指導者の熱意のほかに子供の性格や興味を承知している先生方の側面からの支援も大きいようです。

緑の少年団活動を有意義なものとしていくためには、保護者、小学校、緑の少年が連携しあって、緑の少年団活動が地域に定着していくことが、何より重要な要素であるようです。



12月8日、9日 全県交流集会の様子

(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

鹿児島大学

林業技術者養成プログラム

～ 長崎県立佐世保青少年の天地 ～

主 催：長崎県森林組合連合会、長崎県

開催日：平成30年11月14日～16日

講師：鹿児島大学農学部 枚田邦宏 教授



研修の趣旨

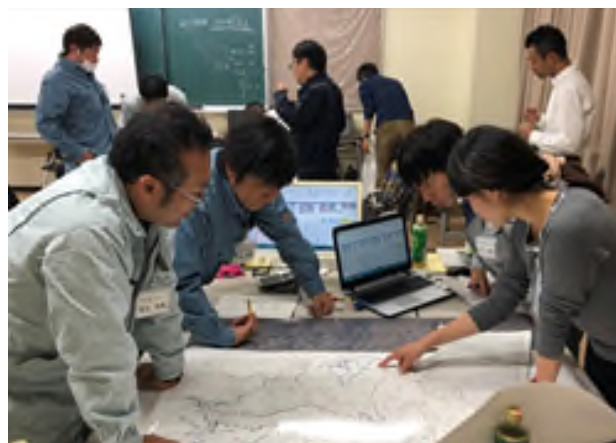
鹿児島大学で開発されている「林業技術者育成プログラム」に基づき、現場の生産性改善が事業体全体の経営にどう結びつくのか、という点を気づき、考える力を養うための人材育成を目的とした研修会を開催しました。

研修の概要

研修では、最初に奥山講師から「研修の目的や必要性」、牧野講師から「施業の集約化」、新永講師から「事業体会計」の講義を受けた後、4班に分かれての「グループワーク」を行いました。グループワークでは、自らが経営者となり施業を行う場合を想定して、林業機械の導入、人件費の設定、施業地の選定、森林所有者との交渉、事業所の損益計算書の作成・決算までの大まかな流れをシミュレーションし、最終日のグループ発表に備えて、考え方や工夫を報告し合うなど、連日深夜まで意見を交わしました。

研修全体を通して

研修生へのアンケートの結果、「林業経営をしている現場目線で指導いただき林業事業体の仕事内容、森林施業プランナーがいかに苦労しているか実感できた。」「自分達で考え答えを出すことができ理解を深められた。」という意見が寄せられ、今後このような研修があれば参加したいですか？という質問に対しては、20名中18名が「参加したい」と返答があり、本研修への満足度の高さがうかがえました。



左：奥山 洋一郎（鹿児島大学農学部 助教）
中央：牧野 耕輔（鹿児島大学附属演習林講師）
右：新永 智士（鹿児島大学農学部客員准教授）

今後に向けて

研修の振り返りでは、多くの研修生から「2泊3日では時間が足りなかった！研修内容をもっと深く知りたい！」という意見も寄せられたことから、次年度以降も継続する必要性を感じました。また、次回の開催に当たっては、市町の林務担当者にも参加を呼びかけし、「気づき」や「考える力」を養う研修ができればと考えています。

（林政課普及指導班）

地方だより

平成30年度第1次補正予算成立

【平成30年に発生した主な災害一覧】

災害名	災害発生日時	主な被害
大阪府北部地震	平成30年6月18日	最大震度6弱を記録。 死者4名、負傷者434名 家屋全壊9棟、半壊87棟（その他多くの家屋が被災） 登校中の女児生徒が地震により崩落した小学校のブロック塀の下敷きとなり帰らぬ命となった。
平成30年7月豪雨	平成30年6月28日 ～7月8日	西日本を中心に長時間に渡り強雨が続く。 死者224名、負傷者427名 家屋全壊6,695棟、半壊10,719棟（その他多くの家屋が被災） 西日本各地で被災。山腹の崩壊や河川の氾濫などが相次いだ。 平成最後にして最悪の豪雨災害であるとされた。
平成30年台風第21号	平成30年9月4日上陸	死者14名、負傷者954名 家屋全壊26棟、半壊189棟（その他多くの家屋が被災） 強風により関西空港の連絡橋にタンカーが激突、また高潮により滑走路が冠水。関西空港が閉鎖される事態に。 一時3,000人以上の利用客が足止めとなった。
北海道胆振頭部地震	平成30年9月6日	最大震度7を記録。 死者41名、負傷者749名 家屋全壊409棟、半壊1,262棟（その他多くの家屋が被災） 厚真町で大規模な土砂崩壊が発生。36名の尊い命が犠牲となった。

近年自然災害による被害が全国各地で発生しています。平成最後の年となる平成30年は毎年恒例の今年の漢字に「災」が選ばれたように大規模な災害がいくつも発生した一年でした。

このような状況を受け、政府は平成30年10月24日～12月10日の会期で臨時国会を召し、全国各地で相次いで発生した自然災害への対応について審議を行い、第1次補正予算が成立しました。

成立した補正予算のうち、農林水産関係については総額974億円（うち災害復旧等事業870億円および施設災害復旧事業費3億円を含む）であり、そのうち治山事業には52億円が配分され、国の直轄治山事業を除いた民有林治山事業費には約30億円が配分されました。

治山事業補正予算の主な概要は、平成30年7月豪雨や北海道胆振東部地震等により被災した山地における更なる災害発生と被害拡

大を防止するため、治山ダムの整備や巨石・不安定土砂対策等を緊急的に実施することとなっております。対象都道府県は今回の災害に関連する22道府県であり、長崎県は補正予算の確保に向けて努めた結果、民有林補助治山事業費として国費約3億9千万円が交付され、民有林補助治山事業費を申請した19道府県中3番目に多い交付額となりました。補正予算については、11月県議会にて承認され、速やかな事業執行に努めております。

さらに、安倍首相は11月20日の閣議にて第2次補正予算案の編成を指示し、「防災・減災、国土強靱化のため3カ年の緊急対策のうち速やかに着手すべきものを計上する。」と発言しています。長崎県は今後もこれら予算を確実に確保していくことで、更なる長崎県の安心・安全な生活の確立を目指していきます。

（森林整備室 治山班）

地方だより

第3回 山の日イベント開催 一県央一

「山の日」は、「山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する」ことを趣旨として制定された16番目の国民の祝日で、今年で3年目を迎えました。県央振興局では、8月11日に、諫早市、諫早市観光物産コンベンション協会、ボランティア団体と協力し、諫早市高来町の轟峡にて、山の日イベント「Let's enjoy nature! 轟峡に全員集合」を開催しました。轟峡は、多良岳山系に源を発する渓谷の1つです。水量が豊富で奇岩に恵まれた大小30余りの滝がある県下有数の清流であり、「名水百選」や「水源の森百選」にも認定されています。

昨年も、轟溪流ウォーキング、森の冒険や森の魚釣りなど各団体による様々なイベントが行われ、子どもたちの楽しそうな声がたくさん響いていました。

今回は、「森の工作」と題して、葉や木の実を使った万華鏡作りと木の名札作りを実施しました。夏の暑い中でしたが、事前申込の人数を超える方々にお越しいただき、大変盛り上がりました。

万華鏡づくりでは、万華鏡の中身をビーズだけではなく、落ちていた葉や木の実を入れ、自然の材料を活かした万華鏡を作成しました。筒もシールや絵などで自由に装飾し、自分だけの万華鏡に満足している様子でした。また、材料集めの際にポリ袋を配布し、ゴミ拾いにもご協力いただきました。

木の名札づくりでは、事前予約がない方にも作成していただき、名札に自分の名前や、好きなキャラクターなどを書いていました。また、名札は、長崎県民の森に提供していただき、県民の森のパンフレットや森林環境税のPRポケットティッシュも併せて配布しました。

イベントをとおして、山を歩き、自然の素材に触れることで、五感で豊かな自然を体感できたのではないかと思います。

材料集めのため散策



万華鏡作成の様子



普段の生活では、森の中や川辺を歩くことは少ないようで、子どもたちは、新鮮な様子で散策していたように感じました。

また、子どもたちだけでなく、保護者の方も楽しんでいる様子が見られました。夏休みの工作課題を作りに来られた方々も、植物や自然と触れ合うことの楽しさを感じてもらえたのではないのでしょうか。今後も、毎年山の日イベントを開催することでより多くの方に森林の働きや良さを知ってもらえたらと思います。



イベント会場の様子

(県央振興局林業課)

「木育キャラバンin松浦」 開催



松浦市では、『木育（もくいく）』推進の一環として、子どもが木に触れて、ぬくもりを感じてもらう機会を提供するため、平成31年2月23日（土）・24日（日）に、松浦市文化会館ふれあいホールにおいて、「木育キャラバンin松浦」を開催します。

本キャラバンは、東京おもちゃ美術館及びNPO 法人芸術と遊び創造協会の協力のもと開催するもので、全国各地に期間限定で即席のおもちゃ美術館を設営する移動型のおもちゃ美術館となっています。東京から200種類を超える木のおもちゃ（上記チラシ参照）が大集合し、普段は触れることの少ない木のおもちゃが、会場いっぱいになります。

また、本キャラバンは、長崎県内初の開催となります。松浦市民はもとより、市外からも多くの方にご来場いただき、木の持つ良さを再発見してもらうとともに、松浦市の魅力を少しでも多く感じてもらえればと思います。

『木育（もくいく）』とは

「子どもから大人までを対象に、木材や木製品との触れ合いを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学ぶための教育活動」を指します。

※政府広報オンライン「木材を使用して、元気な森林を取り戻そう!」より

『木育』に取り組む主な背景

①県民共有の財産である森林を社会全体で支えていくための森林づくりや県産材の利用等を促進する県のふるさと森林づくり事業と同様、本市においても、森林がもたらす役割は重要であり、水資源の確保（水源涵養）等の多面的・公益的機能を持つ森林を守ることが重要と考えます。

②木材は身近にあり様々な利点がありますが、工業技術の進歩や生活様式の変化により、徐々に暮らしから姿を消し、木材利用の文化や知識が失われつつあります。

③出生数の減少に加え、転入者より転出者の方が多いため社会減少により人口減少に歯止めがかからない状況であるため、今後、移住・定住人口の増加に繋がるような子育て環境の更なる充実・新たな支援策が必要と考えます。

松浦市が目指す目標

市民が森林の大切さを理解して、木材の利活用が促進されるような取組を行うと共に、松浦で生まれ育つ子どもたちの環境に木材を取り入れ、そのすばらしさを五感で学び、子どもの心を豊かにすると共に、将来、森林や自然を大切に考え行動できる「人」を育てることを目標とします。

（松浦市 子育て・こども課）

センターだより

九州森林学会沖縄大会に参加しました

平成30年10月26日から27日にかけて第74回九州森林学会大会が沖縄県において開催されました。

この九州森林学会は、今回で74回となる歴史ある大会です。

大会は26日に役員会、表彰式・総会、特別講演会、懇親会が沖縄県青年会館で行われました。

特別講演として、2名の講演がありました。1人目は、琉球大学農学部教授の芝正己氏が「沖縄の森林・林業の歴史の変遷と森林管理におけるパラダイムシフト」というタイトルで、沖縄の森林管理の歴史について講演されました。2人目は、元沖縄県職員で農学博士の安田慶次氏が「デイゴヒメコバチの被害と天敵デイゴカタビロコバチ導入に至る経緯」というタイトルで、沖縄県で主要な樹木であるデイゴに被害を及ぼすデイゴヒメコバチの天敵をハワイから導入した取り組みについて紹介されました。

研究発表会は27日に中頭郡西原町にある

琉球大学で行われました。

会場は、林政・利用、経営、造林、立地・生理・緑地、育種、保護、林産・防災という7つの部門に分かれ、約100件の発表・質疑が熱心に行われました。

長崎県からもツバキ、シイタケ、ハラシ、ヒノキの天然乾燥について4件の発表を行いました。参加者から様々な質問や意見を頂いたため、今後の研究の参考としたいと考えています。



120周年を迎えました！

長崎県農林技術開発センターは、明治31年(1898年)長崎県立農事試験場として長崎市中川町に創設されて以来、大正9年(1920年)に諫早市永昌町に移転、そして昭和36年(1961年)に現在の諫早市貝津町に再度移転して、今年で120年目の節目に当たります。

120周年を記念して、様々なイベントが企画、実施されています。

11月3日には、120周年記念ウォークと題し、過去に施設が設置されていた3箇所をつなぐ旧長崎街道約25kmを歩きました。

また、1月10日には、諫早市立多良見図書

館にて、長崎の農林業試験研究120年のあゆみや、近年の農林業の発展に寄与した研究等について紹介する、研究成果発表会が行われました。

近年の各部門の試験研究の変遷について取りまとめた120周年記念誌も発行されます。

120周年の節目の年を迎え、長崎県の農林業の試験研究を振り返るとともに、今後も長崎県の農林業の発展に貢献していけるよう、試験研究に励んで行きたいと思っております。

(長崎県農林技術開発センター)

紹介コーナー ペレットストーブショールーム 『Wood Work Labo HITOKITO』（西彼杵郡長与町）



長与町にあるペレットストーブショールームです。ペレットストーブの最大の特長は、環境に優しいことです。ペレットを燃焼することで大気中に放出される二酸化炭素は、森林に同じ量だけとりこまれ森林の生長の源になります。また木質ペレット燃料を使用することで、山主さんの収入となり、その収入をもとに間伐作業が活発に行われ、木々の根本まで太陽の光が十分に届くことで、木は太く立派に育っていきます。ペレットを使えば使うほど、日本の森は健康を取り戻していくのです。

ゆくゆくは、長崎の森から出たおがくずを原料とした木質ペレット燃料を長崎の皆さんにお使いいただくという小さな単位でのエネルギーの地産地消を目指しています。

しかしながら、ペレットストーブやペレットボイラーが少ないため、県内で一から製造を行うための設備を整えるのは時期尚早です。現在、宮崎県の間伐材を使用した木質ペレットを販売しています。

ペレットストーブの販売価格は、約20万円～、配管設備10～15万円でペレットストーブを楽しめます。木質ペレットの販売価格は、1kg 60円、1時間につき、1kgのペレットを消費します。

『Wood Work Labo HITOKITO』
(ウッドワークラボヒトキト)

住所：〒851-2127
西彼杵郡長与町高田郷812
TEL：095-807-7148
FAX：095-843-4544
定休日：不定休

伊万里木材市況

【ヒノキ】

平成30年12月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	18,400	少ない	多い	多い
	16～18	小曲り	16,700	少ない	多い	多い
	20～22	直	17,800	少ない	多い	多い
	20～22	小曲り	16,800	少ない	多い	多い

【スギ】

平成30年12月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	13,500	少ない	多い	多い
	18～22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24～26	直	13,500	少ない	多い	多い
	24～26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

森林ボランティア技術研修会

はじめに

長崎県森林ボランティア支援センターでは、県内で活動されている森林ボランティア団体を対象に年4回技術研修会を各団体の要望に応えた研修内容で開催しています。

森林ボランティア活動は危険が伴います。安全な活動の為に、研修会では技術の習得・向上・作業方法・安全管理法等を行っています。

平成30年度は下記の内容で開催しました。

第一回技術研修会

テーマ：『チェーンソーの事前確認と伐倒基本編』

日付：平成30年5月9日（水）

開催地：県北グリーンクラブ活動地

内容：伐倒に使う道具としてロープ・クサビ・フェリングレバーの説明、チェーンソーの安全ブレーキの機構と動きの確認、キックバックの発生原因についての解説、指導手順の実演、かかり木処理の方法、伐倒の作業体験

第二回技術研修会

テーマ：『放置された二次林の手入れ、その第一歩』

日付：平成30年7月22日（日）

開催地：自然共生コミュニティ森のわ活動地

内容：里山づくりについての説明、ナタと鎌の研磨実技、活動地の林相についての解説、放置林の手入れ実習、現地調達材による道具「木かたげ又」の製作等



第二回技術研修会：活動地の林相についての解説

第三回技術研修会

テーマ：『雑木林の除伐・間伐・整理伐及びチェーンソーメンテナンス』

日付：平成30年11月4日（日）

開催地：くろんたふるさと会活動地

内容：チェーンソーのメンテナンス実習、雑木林の除伐・間伐・整理伐の意味と目的の解説、除伐・整理伐の実習等



第三回技術研修会：チェーンソーのメンテナンス実習

第四回技術研修会

テーマ：『作業ボランティア対象活動指導技術～坪刈編～』

日付：平成30年11月11日（日）

開催地：NPO 法人奥雲仙の自然を守る会
「遊々の森」

内容：手鎌の研磨実技、下刈の目的・適期についての解説、手鎌を使用した坪刈りの仕方・指導方法等

おわりに

森林ボランティア活動は森林保全を行うだけではなく、森林の大切さを伝える役割も担っています。安全で楽しい活動を持続するため、今後も技術研修会を開催していきます。多くの方々の参加をお待ちしております。

（長崎県森林ボランティア支援センター）

長崎の林業 1月号 第760号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp